

## サカタザメの出産と成長について

仲波 友美（島根県立宍道湖自然館ゴビウス）

サカタザメ *Rhinobatos schlegelii* は、水深 20～230 メートルの砂地にくらす、吻端がとがりサメとエイの中間的な体をしたエイのなかまである。主に、魚類や甲殻類、頭足類を食べる。繁殖方法は卵黄依存型胎生で、胎児は卵黄から栄養をとり、ある程度成長すると母親は子どもを出産する。妊娠期間は約 1 年で、6～10 月頃に出産する。

今回、2019 年 8 月に出雲沖で釣り上げられたメスのサカタザメの持ち込みがあった。そして、その個体が搬入から約 2 カ月後に 4 個体のサカタザメの幼魚を出産した。今回のように、産まれて間もないサカタザメの幼魚飼育の事例は少なく、当館でも初めてのケースであった。4 個体の大きさは平均で全長約 26.6cm、体盤幅約 9.2cm、重さ約 73.1g であった。一般的に 6～10 個体程度の幼魚を出産されているが、出産から 2 週間後に死亡した母親を開腹したところそのほかの胎児は確認できなかった。

出産確認後すぐに給餌を行うと、4 個体とも反応し摂餌行動がみられた。その後は、オキアミ、タコ、イカ、魚の切り身、えびのむき身、多毛類などを試した。給餌は 1 日 1 回で、基本的には自発的に摂餌させた。4 個体とも摂餌になれたところで、予備水槽と展示水槽の 2 か所で飼育を行った。しかし、両水槽で 1 週目から衰弱し始め、出産から約 1 カ月以内に 1 個体ずつ斃死した。死亡の原因は栄養不足であると考えられ、両水槽で給餌方法の改善が必要となった。予備水槽では自発的に摂餌させたが、餌を 1 度で口に入れられるよう 0.5～1cm 程度に細かく切って与えた。また、展示水槽では、閉館後にピンセットや給餌棒などを用いて口元まで餌を誘導して与えた。

給餌方法の改善により、生後 68 日の育成に成功した。最後に死亡した個体の全長は 28.5cm であり、初回計測時の全長 27.0cm から 1.5cm 成長していた。今回の事例は、今後のエイ、サメ類の飼育に参考となるケースとなった。



サカタザメの幼魚